

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：13701

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K10374

研究課題名（和文）外国人患者と医療者の調整行動に着目した医療のための「やさしい日本語」教育の開発

研究課題名（英文）Developing an educational model of "plain Japanese" in healthcare with focus on language management process in interaction between health professionals and foreign resident patients

研究代表者

今福 輪太郎（Imafuku, Rintaro）

岐阜大学・医学部・助教

研究者番号：40649802

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、在住外国人患者を対応する中で医療者が直面する困難とそれらへの調整行動の実態を調査することにある。特に、医療者は、患者の治療希望と医療者の治療方針にズレが生じたときや複雑な説明を要するときには困難と不安を強く感じていた。こうした状況への対処として、短い句や単語の使用・断定的な表現・英単語の混用といった「言語的調整」、翻訳アプリなどの「ツール活用」、患者の主訴に応じた必要最低限の治療や説明の提供といった「複雑性への回避」がなされた。本調査結果を基盤に、医療者教育において「やさしい日本語」教育を導入するとともに教材開発にも取り組むことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

COVID-19感染拡大後も在住外国人人数が増え続ける中、医療者がどのように対応しているのか、その実態を探索した研究は非常に少ない。本研究は在住外国人患者の対応経験を有する医療者の実際の経験を調査することで、医療者の対外国人患者の調整行動や認識を明らかにした。本調査結果を基盤にして、「やさしい日本語」に関する全国の医療教育者を対象にしたワークショップの開催や動画教材の開発など、多文化共生社会に求められる医療人養成に寄与することができたといえる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to investigate the difficulties faced by healthcare providers in dealing with foreign patients and their communicative management behaviors. Particularly, they strongly felt difficulties and anxiety when there was a discrepancy between the patient's treatment preferences and their treatment policies, or when complex explanations were required. To address such situations, "linguistic adjustments" such as the use of short phrases or words, decisive expressions, and mixing of English words, "use of various communication tools" such as translation apps, and "avoidance of complexity" such as providing the minimum necessary treatment and explanations according to the patient's chief complaint were employed. Based on the findings in this study, efforts could be made to introduce education on "easy Japanese" in health professions education and to develop educational materials.

研究分野：医療者教育

キーワード：異文化コミュニケーション 外国人患者対応 やさしい日本語 言語調整

1. 研究開始当初の背景

COVID-19 の感染拡大により在住外国人数は、2020 年には過去最高の 288 万人 (総人口の約 2%) に達し、日本社会での多文化共生の推進は喫緊の課題であった。医療分野では、支援策の一つとして医療通訳士養成を行っているものの、多言語且つ多数の外国人患者を個々に対応することは難しい現状にあった。生活言語として日本語を使用する在留外国人は 61.7% にのぼる。また、阪神淡路大震災時に相談窓口を訪れた外国人で母語による相談ができなかった場合、多くは日本語を選択したという報告もある。つまり、中国、韓国、ブラジル、ベトナム等の英語が母語ではない在住外国人が圧倒的に多く、英語ではなく平易でわかりやすい日本語 (= やさしい日本語) の方が円滑なコミュニケーションの媒体として十分に機能する場合が多い。現在、医療において多言語問診票や指差し日本語など語彙・文法レベルでの日本語の考案はあるが、談話・対人レベルに「やさしい日本語」を落とし込む取り組みは非常に少ない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、方法論としてエスノグラフィーを用いて、診療場面での在住外国人患者と日本人医療者の経験や認識を含む実態の解明にある。特に、異文化接触場面での調整行動プロセスに着目し、両者の日本語運用や対処行動を検証する。この研究結果を基盤として、医療者向けに「平易で外国人にわかりやすい日本語 (= やさしい日本語)」を考える研修会を開催し、医療のための「やさしい日本語」教育プログラムを開発することを目的とした。

3. 研究の方法

開業歯科医師 11 名と病院及び薬局薬剤師 10 名に対して在留外国人患者への対応経験に関する半構造化インタビューを実施した。対外国人患者で抱いた不安と、その状況への対処や工夫に関する内容に着目しながら、主題分析手法に従い逐語データを分析した。

上記の研究結果をもとに、多文化共生社会における医療の在り方とやさしい日本語に関する教育を開発し、卒前医学教育に導入する取り組みを実施した。

4. 研究成果

(1) 地域の医療従事者の在住外国人患者対応の実態

地域の医療者への在住外国人患者への対応経験に関する半構造化インタビュー調査により、医療者は、歯の単純な修復治療や薬の服用時間や回数など簡単な内容であれば大きな問題は生じないと認識していたことが明らかとなった。一方で、患者の治療希望と医療者の治療方針にズレが生じたときや、根管治療や薬の副作用、保険適用など複雑な説明を要するときには困難と不安を強く感じていた。こうした状況への対処として、1) ゆっくり話す・短い句や単語の使用・専門用語の回避・断定的な表現・英単語の混用といった「言語的調整」、2) 翻訳アプリ・視覚的情報 (図示・画像・動画)・多言語診療マニュアルなどの「ツール活用」、3) 患者の主訴に応じた必要最低限の治療や説明の提供・会話内容の単純化や省略といった「複雑さへの回避」等がなされた。

図 1 は医療者の在住外国人患者対応で生じた問題に対する調整行動のプロセスを示している。医療者は、言語的、社会言語的、および社会文化的な問題に直面した際、それが管理可能かどうかを自身の中で判断していた。管理可能とした場合は、彼らは言語的調整、コミュニケーションツールの活用、文化的な興味との共有など、患者との信頼関係を築く試みを行った。一方で、問題に対して一人でなんとかやりくりすることがうまくいかない場合は、複雑さへの回避を管理戦略として採用した。しかしながら、複雑さを避ける中で、医療者は外国人患者に対する自身の実践に対してやりきれなさを感じてしまっていた。

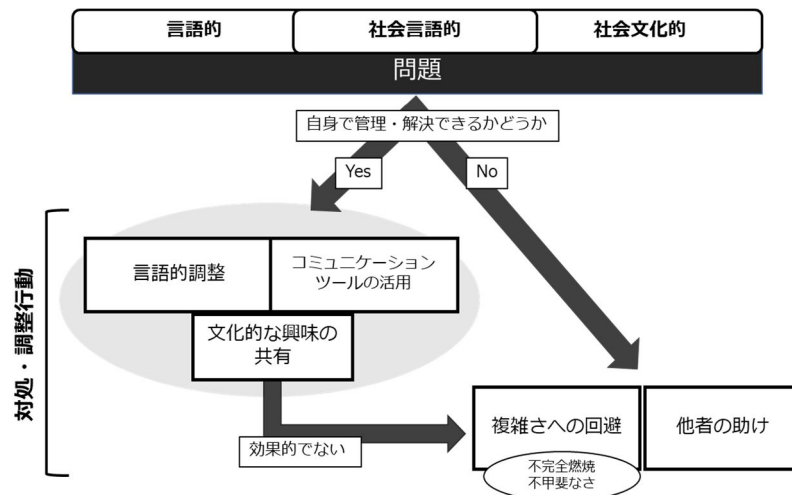


図 1：外国人患者対応時の医療者の調整行動プロセス

下記に具体的な医療者の調整行動に関するインタビューデータを示す（表 1）。

表 1：調整行動例

| テーマ | サブテーマ | 逐語例 |
|---------|--|---|
| 言語的調整 | 短い句や単語の使用 専門用語の回避 断定的な表現 英単語の混用 | 向こうの人はどっちかというとか×かきっちり言っとかないと、って感じることがあります。…「抜かないように努力しますね」みたいなことでは、そのニュアンスが伝わりにくいので。もう抜くなら抜くと断定的に。(歯科医師) |
| ツール活用 | 翻訳アプリ 視覚的情報(図示・画像・動画) 多言語診療マニュアル | 中国の方だと思うんですけど、翻訳アプリで、日本語と英語の文章が二つ並んで出るのがあって、日本語でタブレットに音声で言ったら、文章が勝手に英語に訳されるので、それ使って、表情見ながら、伝わってるかなって確認するようなやり方を、僕はしてましたね。外国の方は、英語が伝わりやすい方が多い印象なんですよ。(薬剤師) |
| 複雑性への回避 | 患者の主訴に応じた必要最低限の治療や説明の提供 会話内容の単純化や省略 | ここだけ治してくれればいいんだと、他は虫歯も何も治療しなくていいんだよと、他はやるなと言う人もいますね。この人はそういうとこまで望んでないんだなと思えば、もう(他の必要な治療のことは)言わないで、そこの痛いところだけ治して終わりましたよって言って。本当はここ歯石も取ったりとか、口の中のケアをちゃんとしないといけない。(歯科医師) |
| 不完全燃焼感 | | 外国人の方は、本当は言いたかったってことがあるかもしれないし。診療が終わったあとは、不完全燃焼です。日本人なら、自分が言いたいこととか、訴えたいこととかを完全に伝えられるんですけど。もう不完全燃焼ですよ。こちらの言ったことが伝わったのか、伝わってないのかも分からない。でも治療はしなきゃいけないから、治療をとにかく完成させよう。満足する、しないというよりも、この人の病気を治すことだけしか考えてないですね。(歯科医師) |

以上の研究より、多くの医療者は自分自身の説明や意図が外国人患者に十分に伝わっているか不安を感じていた。また、疾患に対する必要最低限の治療や説明でその場をしのいでいるという感覚を有したが、それは質問 - 返答の会話パターンが主となり話題の広がりや掘り下げができないことに起因している。特に、外国人患者の心理社会的背景を理解しながらの対応ができずに終わってしまい「不完全燃焼」感を覚える医療者もいた。多くの在留外国人は生活言語として母語に加え日本語を使用するという報告があり、医療者の外国人患者対応への心理的負担を軽減し円滑なコミュニケーションを促すためにも医療のための「やさしい日本語」の推進が求められることを明らかにした。

主な研究成果:

Imafuku, R., Nagatani, Y., & Shoji, M. (2022). Communication management processes of dentists providing Healthcare for Migrants with Limited Japanese Proficiency. *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 19(22), 14672.

(2) 多文化共生社会における医療の在り方と「やさしい日本語」教育の開発

卒前医学教育への導入

岐阜大学医学部の初年次教育の一環として実施される地域体験実習は、ライフステージや文化背景の異なる市民との交流を通じて、医学生が自分自身と向き合いながら人生やコミュニケーション、地域について深く考える実習である。外国人市民から見た日本の暮らしや想いを理解することを目的として、その実習に外国人市民との交流の場を設けた。彼らの実際の会話内容と、そこでの医学生の異文化コミュニケーション方略を探索する研究を実施した。実習では、医療だけでなく社会・文化など多岐にわたる話題が展開された。医学生は、自身の経験や価値観（医師を目指した経緯、医師としての将来像、受験、趣味、海外経験等）や日本の医学教育（学習内容、カリキュラム、試験等）を説明する機会や、外国人の経験や価値観（来日の経緯、日本生活での苦労や不安、日本語学習、家族、育児、余暇、健康、仕事等）を理解する機会を得た。また、お互いの国の文化（国民性、食文化、言語、スポーツ、年行事等）や社会・経済（保険制度、税制、物価、治安、災害対策、コロナワクチン接種等）、地理（気候、観光地、隣国へのアクセス等）について共有した。交流の中で、医学生は、略語の回避や言葉の言い換え、聞き返し、会話スピードなど言語的調整を行い、コミュニケーションを円滑にする工夫も観察された。以上より、文化や背景の異なる外国人との交流は、医学生にとって外国人の視点からの日本社会や価値観の多様性、異文化コミュニケーションの在り方を考える機会になったといえる。本研究成果は2022年日本医学教育学会で発表することができた。

臨床実習前の医学部4年生を対象とした「医師患者関係」の科目において、外国人患者とのコミュニケーションとやさしい日本語の必要性に関する授業を導入し、多文化共生社会における医療について考える機会を設けることができた。

主な研究成果:

Imafuku, R. (2024). Host receptivity: The key to facilitating international medical graduates' acculturation. *Medical education*, 58(3), 363.

Imafuku, R., Kawakami, C., Hayakawa, K., & Saiki, T. (2024). Towards developing health communication education in globalising East Asia. *The Asia Pacific Scholar*, 9(1), 58-60.

Imafuku, R., Tsunekawa, K., Kawakami, C., & Fujisaki, K. (2023). Improving intergenerational communication: A case study of interactions between medical students and senior citizens in a Japanese community. In *Language, Health and Culture* (pp. 154-172). Routledge.

医療者教育者へのFD開催

岐阜大学医学教育開発研究センター主催の第80回医学教育セミナーとワークショップにて、医療者教育者対象に「やさしい日本語」で外国人患者とコミュニケーション」のワークショップを武田裕子（順天堂大学）、新居みどり（NPO 法人国際活動市民中心）、石川ひろの（帝京大学）、今福輪太郎（岐阜大学）、岩田一成（聖心女子大学）の企画により開催した。実際に日本語を母語としない方とのロールプレイを行い、その後、「やさしい日本語」の卒前・卒後教育への導入・医療者への普及の意義とその方略について討議を行った。受講者は、外国人への医療サポートを考える際に医療通訳の導入が真っ先に浮かぶが、医療通訳の導入には施設ごとに差があるのが実情であり、そこは「やさしい日本語」で補完できるという気づきを得ていた。医療資源の無駄使いをしないように、通訳でなければならない場面でしっかり活躍いただくために、普段医療者が「やさしい日本語」で対応できる場面では、積極的に「やさしい日本語」を取り入れたい、という声があがった。

主な成果:

武田裕子, 新居みどり, 石川ひろの, 今福輪太郎, 岩田一成. 「やさしい日本語」で外国人患者とコミュニケーション. *新しい医学教育の流れ*. 2021, 21(3) 131-136.

教材開発

教材開発としては、岐阜大学グローバル推進機構の動画配信で提供する学習プラットフォーム「Glocal Lesson」において、「異文化間コミュニケーションにおける関連理論」「多文化共生社会におけるコミュニケーション」に関する教材を作成し公開し、「やさしい日本語」の有用性を発信することができた。

主な成果:

岐阜大学グローバル推進機構. Glocal Lesson. <https://www.gu-glocal.com/>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 10件）

| | |
|---|-------------------|
| 1. 著者名 Rintaro Imafuku | 4. 巻 58 |
| 2. 論文標題 Host receptivity: The key to facilitating international medical graduates' acculturation | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 Medical Education | 6. 最初と最後の頁 363 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/medu.15195 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Rintaro Imafuku, Chihiro Kawakami, Kaho Hayakawa, Takuya Saiki | 4. 巻 9 |
| 2. 論文標題 Towards developing health communication education in globalising East Asia | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 The Asia Pacific Scholar | 6. 最初と最後の頁 58-60 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.29060/TAPS.2024-9-1/PV3064 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Maximilian Andreas Storz, Rintaro Imafuku | 4. 巻 8 |
| 2. 論文標題 Why foreign medical students seek abroad elective experience in Japan: The German case | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 The Asia Pacific Scholar | 6. 最初と最後の頁 53-56 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.29060/TAPS.2023-8-4/CS3003 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Rintaro Imafuku, Yukiko Nagatani, Masaki Shoji | 4. 巻 19 |
| 2. 論文標題 Communication management processes of dentists providing healthcare for migrants with limited Japanese proficiency | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health | 6. 最初と最後の頁 14672 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph192214672 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------|
| 1. 著者名 Yukiko Nagatani, Rintaro Imafuku, Yukie Nakai | 4. 巻 10 |
| 2. 論文標題 Broadening the dental hygiene students' perspectives on the oral health professionals: A text mining analysis | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Dentistry Journal | 6. 最初と最後の頁 160 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/dj10090160 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 Rintaro Imafuku, Takuya Saiki, Robyn Woodward-Kron | 4. 巻 13 |
| 2. 論文標題 Revisiting discourse analysis in medical education research | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 International Journal of Medical Education | 6. 最初と最後の頁 138-142 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5116/ijme.6278.c1b7 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Rintaro Imafuku, Kaho Hayakawa, Takuya Saiki | 4. 巻 7 |
| 2. 論文標題 Text analysis of personal statements written in English by Japanese medical students | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 The Asia Pacific Scholar | 6. 最初と最後の頁 51-55 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.29060/taps.2022-7-2/sc2710 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 Rintaro Imafuku, Yukiko Nagatani, Saeko Yamada | 4. 巻 22 |
| 2. 論文標題 Complexities of interprofessional identity formation in dental hygienists: an exploratory case study | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 BMC Medical Education | 6. 最初と最後の頁 1-12 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12909-021-03082-z | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名 今福輪太郎, 西城卓也 | 4. 巻 73 |
| 2. 論文標題 脳神経内科領域における医学教育の展望: Post/with コロナ時代を見据えて (Vol. 3) 臨床教育アプローチを裏付ける教育理論 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Brain and Nerve | 6. 最初と最後の頁 1290-1293 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 西城卓也, 今福輪太郎 | 4. 巻 72 |
| 2. 論文標題 脳神経内科領域における医学教育の展望: Post/with コロナ時代を見据えて (Vol. 2) 現代の指導医に求められる「支援者的」臨床教育アプローチ | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Brain and Nerve | 6. 最初と最後の頁 1164-1167 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 長谷由紀子, 中岡美由紀, 今福輪太郎, 吉田登志子, 木尾哲朗 | 4. 巻 52 |
| 2. 論文標題 模擬患者参加型研修から歯科衛生士は何を学び、臨床現場でどう活かしたか | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 医学教育 | 6. 最初と最後の頁 319-324 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.52.4_319 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 Rintaro Imafuku, Takuya Saiki, Kaho Hayakawa, Kazumi Sakashita, Yasuyuki Suzuki | 4. 巻 26 |
| 2. 論文標題 Rewarding journeys: exploring medical students' learning experiences in international electives | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Medical Education Online | 6. 最初と最後の頁 1-12 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10872981.2021.1913784 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-------------------|
| 1. 著者名 今福 輪太郎 | 4. 巻 5 |
| 2. 論文標題 質的研究を実施するうえで知っておきたい基本理念 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 薬学教育 | 6. 最初と最後の頁 1-6 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10872981.2021.1913784 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 庄司雅紀, 藤原篤子, 今福輪太郎, 島田京司, 恩田光子 | 4. 巻 4 |
| 2. 論文標題 薬局薬剤師が抗うつ薬の服用に抵抗感を抱く患者に対して実践している工夫に関するテキストアナリシス | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 日本精神薬学会誌 | 6. 最初と最後の頁 42-49 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 Manabu Yoshimura, Takuya Saiki, Rintaro Imafuku, Kazuhiko Fujisaki, Yasuyuki Suzuki | 4. 巻 11 |
| 2. 論文標題 Experiential learning of overnight home care by medical trainees for professional development: an exploratory study | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 International Journal of Medical Education | 6. 最初と最後の頁 146-154 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5116/ijme.5f01.c78f | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計10件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 4件)

| |
|---|
| 1. 発表者名 Rintaro Imafuku, Masaki Shoji, Yukiko Nagatani |
| 2. 発表標題 Exploring intercultural communication management process: A case study of pharmacist-migrant patient encounters in Japan |
| 3. 学会等名 21st International and Interdisciplinary Conference on Communication, Medicine and Ethics (国際学会) |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Cesar Orsini, Rintaro Imafuku, Barbara Jennings, Rashmi Kusurkar, Jorge Tricio |
| 2. 発表標題 What motivates clinical educators to teach? A systematic review and framework synthesis based on Self-determination Theory |
| 3. 学会等名 8th International Self-Determination Theory Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Rintaro Imafuku, Yukiko Nagatani, Masaki Shoji |
| 2. 発表標題 Lost in translation? Communication management process of health professionals in foreign resident patient encounters in Japan |
| 3. 学会等名 Association for Medical Education in Europe (AMEE) Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 今福輪太郎, 川上ちひろ, 早川佳穂, 西城卓也 |
| 2. 発表標題 初年次医学生と外国人市民の交流実習における会話内容の分析 |
| 3. 学会等名 第54回日本医学教育学会大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 今福輪太郎 |
| 2. 発表標題 談話分析の可能性 - 医療者教育研究の動向を踏まえて |
| 3. 学会等名 第1回 日本医療コミュニケーション学会学術集会 (招待講演) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 今福輪太郎 |
| 2. 発表標題 在留外国人患者対応における医療者の調整行動：歯科医師・薬剤師へのインタビュー調査 |
| 3. 学会等名 第40回医療コミュニケーション研究会定例会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 今福輪太郎, 長谷由紀子, 庄司雅紀 |
| 2. 発表標題 在留外国人患者対応における医療者の調整行動に関する予備調査 |
| 3. 学会等名 第53回日本医学教育学会大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Rintaro Imafuku, Yukiko Nagatani |
| 2. 発表標題 Becoming Interprofessional: Exploring Japanese dental hygienists' identity formation through interaction in healthcare |
| 3. 学会等名 19th International and Interdisciplinary Conference on Communication, Medicine, and Ethics (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 武田裕子, 新居みどり, 石川ひろの, 今福輪太郎, 岩田一成 |
| 2. 発表標題 WS-4「やさしい日本語」で外国人患者とコミュニケーション |
| 3. 学会等名 第80回医学教育セミナーとワークショップ with 聖隷浜松病院 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 今福輪太郎 |
| 2. 発表標題 多職種連携教育導入に活用できる医学教育理論 |
| 3. 学会等名 第8回日本シミュレーション医療教育学会学術大会（招待講演） |
| 4. 発表年 2020年 |

〔図書〕 計6件

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 Olga Zayts-Spence, Susan M. Bridges, Rintaro Imafuku, Koji Tsunekawa, Chihiro Kawakami, Kazuhiko Fujisaki | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 Routledge | 5. 総ページ数 212 |
| 3. 書名 Language, Health and Culture: Problematizing the Centers and Peripheries of Healthcare Communication Research | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 中野隆史, 駒澤伸泰, 浅田義和, 恒川幸司, 川上ちひろ, 今福輪太郎 他 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 日本医事新報社 | 5. 総ページ数 287 |
| 3. 書名 医学教育イントロダクション | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 片岡 竜太, 渡邊 洋子, 榎田めぐみ, 岸本桂子, 今福輪太郎 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 薬事日報社 | 5. 総ページ数 106 |
| 3. 書名 医療者のための質的研究 はじめの一步!! - 数値で表しきれないデータを読み解く - | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 Susan M. Bridges, Rintaro Imafuku | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 Purdue University Press | 5. 総ページ数 423 |
| 3. 書名 Interactional Research into Problem-Based Learning | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 Nancy Hensel, Patrick Blessinger, Elizabeth Ambos, Angela Brew, Rintaro Imafuku et al. | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 Palgrave Macmillan | 5. 総ページ数 311 |
| 3. 書名 International Perspectives on Undergraduate Research | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 Jim King, Seiko Harumi, Amy Tsui, Rintaro Imafuku et al. | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 Multilingual Matters | 5. 総ページ数 184 |
| 3. 書名 East Asian Perspectives on Silence in English Language Education | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|--|----|
| 研究分担者 | 長谷 由紀子 (Nagatani Yukiko) (30835088) | 静岡県立大学短期大学部・短期大学部・准教授 (43807) | |
| 研究分担者 | 吉成 祐子 (Yoshinari Yuko) (00503898) | 岐阜大学・グローバル推進機構・教授 (13701) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|--------------------------------------|----|
| 研究分担者 | 庄司 雅紀 (Shoji Masaki) (50782603) | 大阪薬科大学・薬学部・助教 (34413) | |
| 研究分担者 | 西城 卓也 (Saiki Takuya) (90508897) | 岐阜大学・医学部・教授 (13701) | |
| 研究分担者 | 武田 裕子 (Takeda Yuko) (70302411) | 順天堂大学・医学部・教授 (32620) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
| | |